

EUR / USD ユーロドル 月次レポート

前月振り返りと2026年7月の相場展望

発行日

July 1, 2026

対象期間

6月実績 / 7月展望

通貨ペア

EUR / USD

発行頻度

Monthly

6月末レート（終値）

1.14207

▼ -2.01%（6月月間騰落）

6月高値

1.16645

6月安値

1.13243

ECB金利

2.25%

FED金利

3.50-3.75%

今月のハイライト

6月は1.1655からスタートし1.1421まで下落（月間-2.01%）。当社定点観測対象の主要5通貨ペア中で最大の下落幅。ECBの利上げ（ユーロ高）よりもFedのタカ派姿勢強化（ドル高）が勝り、ユーロドルは大幅下落

ECBは6月11日に預金金利を2.00%から2.25%へ0.25%引き上げ、利上げを再開した。中東情勢を巡る地政学リスク後退を受けた原油価格下落でユーロ圏インフレ鈍化が期待され、ECBの追加利上げ観測は後退した

6月17日のFOMCでは据え置きを維持しつつ、ドットプロットでは年内の追加引き締めを示唆する見通しが増えた。欧米金利差（ECB基準）は引き続きドル優位の水準にある

地政学リスク後退に伴う原油価格の下落により、米国でもインフレ鈍化期待が高まり、ユーロドルの方向感が一時交錯した。月末にかけて1.132台まで下落し月末1.142で終了

7月 基本シナリオ レンジ

1.120 - 1.150

Fedタカ派・ECB据え置きのドル高基調継続（確率45%）

欧米政策金利差（ECB基準）

約-1.25~-1.50pp

ECB利上げもFedの追加利上げ観測でドル優位継続

始値

1.16550

6月1日

高値

1.16645

月中最高値

安値

1.13243

月中最安値

月間騰落

-2.01%

-0.02343

6月の相場動向

6月のユーロドルは**1.1655でスタートし1.1421まで下落**（月間-2.01%）。当社定点観測対象の主要5通貨ペア中で最大の下落幅。6月11日のECBの利上げ（+0.25%）は市場でおおむね織り込み済みと受け止められ、ユーロは発表後に下押しした。

6月17日のFOMC（日本時間6/18未明）では3.50～3.75%を据え置いたが、**ドットプロットで2026年末中央値が3.8%に上昇し、年内の追加引き締めを示唆する見通しが増えた**。欧米金利差がドル優位方向に傾き、ユーロドルはFOMC後に一段安。地政学リスク後退による原油価格下落は、欧米のインフレ鈍化期待を高める要因にもなり得たが、Fedのタカ派姿勢がこれを打ち消した。

主要イベントの影響

EU ECB 6月11日 利上げ

預金金利**2.00%→2.25%**に引き上げ

「材料出尽くし（織り込み済み）」でユーロ下押し。1.132台まで下落

原油価格の落ち着きなどを受けて、次回7/23会合での追加利上げ観測は後退

US FOMC 6月17日（日本時間6/18未明）

12対0で3.50～3.75%を据え置き

ドットプロット中央値は3.8%となり、年内の追加引き締めを示唆する見通しが増えた

FOMC後のコミュニケーションはインフレ抑制重視のトーンで、ドルを支える材料となった

6月の総括

6月のユーロドルは「**ECB利上げの材料出尽くし**」+「**Fedのタカ派ドットプロット**」のダブルパンチでドル高が加速し、月間-2.01%の大幅下落となった。原油価格の下落を受けてユーロ圏インフレ鈍化観測が強まり、ECBの追加利上げ観測は後退した。7月は**ECB据え置き×Fedのタカ派継続**という構図が継続する公算が高く、引き続きドル優位の地合いとなりそうだ。

7月の注目ポイント

7月のユーロドルの焦点は①**7月14日発表の米6月CPI**（原油価格の落ち着きがインフレにどう反映されるか）、②**7月23日 ECB会合**（市場では据え置き見通しが優勢。据え置きに加えハト派シグナルが出ればユーロ安要因となり得る）、③**7月29日 FOMC会合（日本時間7/30未明）**（年内追加利上げの可能性）の3点。7月は、米CPI鈍化を受けたFedの利上げ見送り観測と、ECBのハト派転換によるユーロ安圧力のどちらが相場の主導要因となるかが焦点となる。

シナリオ別レンジ予測

 強気	25%	米CPI鈍化・Fed利上げ見送りで欧米金利差縮小	1.148 – 1.168
 基本	45%	Fed据え置き・ECB据え置きでレンジ内低位推移	1.120 – 1.150
 弱気	30%	Fed利上げ実施・ECBハト派転換で一段のドル高	1.095 – 1.125

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
Fedが7/29に0.25%利上げを実施	中	ドル高	ドットプロットでは追加引き締めを示唆する見通しが増えており、実施された場合は欧米金利差拡大を通じて1.10前後への下押し圧力が強まる可能性がある
米6月CPI（7/14）の大幅鈍化	中	ユーロ高	原油価格の下落が6月CPIに反映されれば、Fedの利上げ観測が後退し、ドル安・ユーロ高要因となる可能性がある
ECBが7/23にハト派転換・利下げ示唆	中	ユーロ安	インフレ鈍化が進めば、ECBが利下げを意識させる発信を行う可能性がある。欧米金利差の拡大観測を通じてユーロの下押し要因となり得る
中東情勢の安定化・原油下落継続	中	双方向	地政学リスクの後退で原油価格の下落が続けば、米欧ともにインフレ鈍化圧力が強まり、両中銀の追加引き締め余地を狭める可能性がある。ユーロドルへの影響は一方ではなく、両面から作用し得る

7月の見通し

基本シナリオは**1.120～1.150のレンジ推移**（確率45%）。市場ではECB据え置き見通しが優勢で、Fedのタカ派継続とあわせてユーロドルの重しとなる構図。ただし米6月CPI（7/14）が大幅に鈍化すればFedの利上げ期待が後退しユーロ反発も。**7/14 CPI、7/23 ECB、7/29 FOMC（日本時間7/30未明）**の3連続イベントが7月のユーロドルの方向性を決定する。弱気シナリオの比重をやや高めにみている点に留意。

用語解説

Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。現在3.50～3.75%。次回は7/28-29（結果公表は日本時間7/30未明）。

ドットプロット

FOMCメンバーが将来の**政策金利の予測**を「点（ドット）」で示したグラフ。6月版では2026年末中央値が3.8%となり、年内の追加引き締めを示唆する見通しが増えた。7月FOMCでは通常、SEPは公表されない。

欧米金利差（ECB基準）

ECB金利－Fed金利で算出し、現在は約**-1.25～-1.50pp（マイナスはドル優位を示す）**。Fedが利上げすると、この差は一段とドル優位方向に広がる。

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏の**中央銀行**。6月11日に預金金利を2.25%へ引き上げた。次回は7月23日。市場では据え置き見通しが優勢となっている。

CPI（消費者物価指数）

家計が購入する商品・サービスの**価格変動を測定する指標**。米5月CPI前年比4.2%（6/10発表）。次回は米6月分が7/14発表予定。

材料出尽くし

期待された出来事が実現した際に、すでに価格に織り込まれていた分が巻き戻され、**相場が逆方向に動くことがある**。ECBの6月利上げは、ユーロ高期待が事前に相応に織り込まれていたため、発表後の売りにつながったとみられる。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。